

中学部の取組

中学部の生徒の実態



強み

- ・友だちや地域の人とのかかわりを楽しむ
- ・友だちと支え合う、励まし合う
- ・興味のあること、経験のあることに意欲的に取り組む

課題

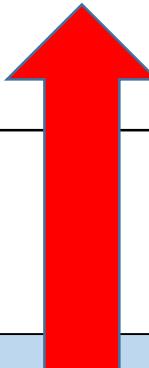
- ・学んだことを関連付けて考える力
- ・相手に思いを伝える力
- ・話し合いの場で意見が出にくい
- ・自分の思いが強く、相手の考えを受け入れることが難しい
- ・地域の一員としての意識

高めたい力

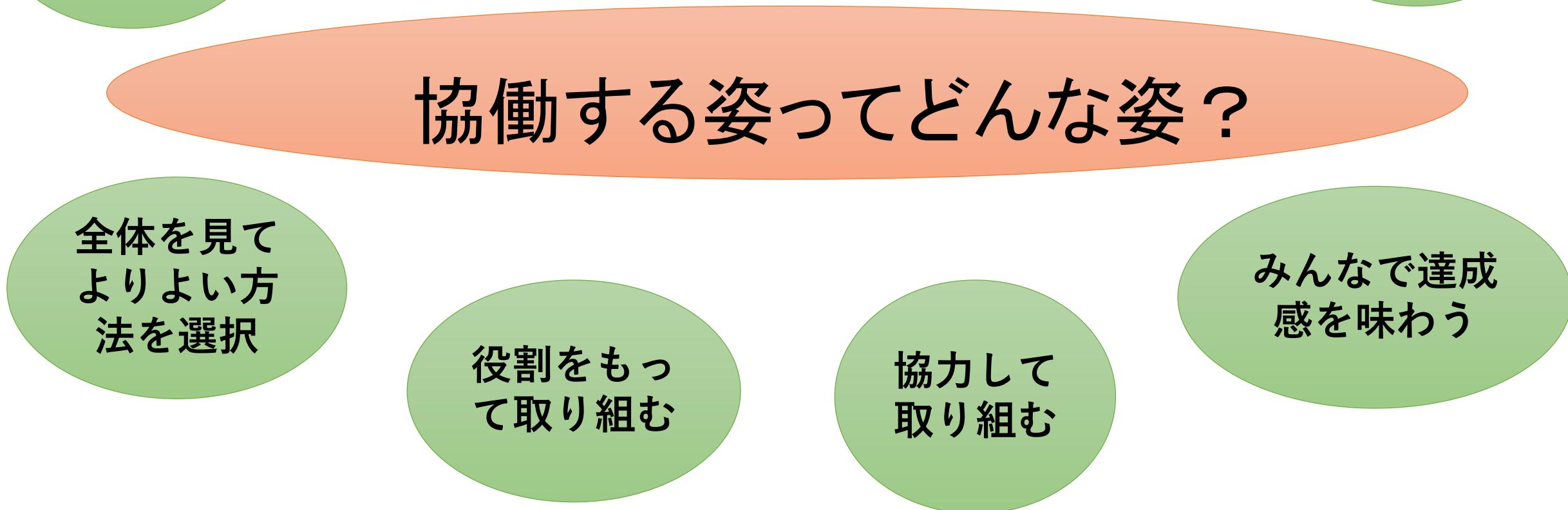
協働力



地域のためにできることを考え、気持ちや考え方を伝え合いながら、友だちや地域の人と協力して取り組む



地域資源を活かした授業実践



協働力をどう高める？

話し合い活動の
工夫

地域資源を活か
した授業実践

話し合いとは

目的

考え方を伝え合ってみんなでよりよりものをつくる

自分の考え方を伝えることができる



友だちの考えがわかる

良さを認め合える



新たな考え方を見つける



協力するよさ・楽しさを感じる

相手意識をもって話し合うことが大切

話し合い活動の流れ



①テーマの確認

何についてはなしあうか知る

②考える

自分の考え方や意見をまとめる



③伝え合う

発表する



反対

同じ

質問

つけたし

発表を聞く



④まとめる

話し合って決まったこと
自分の考え方の変化

を確認する

思考力、コミュニケーション力、協働力の育成、 地域への愛着

役に立てて
うれしい！

自分にもできる
ことがある！

課題解決に向けた取組

もっとかかわ
りたい！

もっとみんなで
何かしたい！

関心をもって
もらえた！

友だちや地域の人と課題を共有

地域とつながり、地域資源を活かした授業実践

各学年での取り組み

1年

学校周辺の地域の様子と特色

- ・「地域を知ろう」～見つけよう、考えよう、やってみよう～」
- ・「自然体験学習」～海と仲間、知ろう、守ろう～」

2年

地域の自然の特色や環境

- ・「国府のまちご案内ツアー」
- ・「食品リサイクルでSDGs」

3年

地域（浜田市、江津市）の課題やニーズ

- ・「地域の特産品をPRしよう」
- ・「地域の違いを学ぼう」

中学部1年グループ



『 地域を知ろう 』

生徒の実態

1年生 8名

【強み】

- ・集団を意識して活動に取り組めるようになりつつある。
- ・海や環境への興味がある。
- ・興味があることには意欲的に、集中して取り組むことができる。
- ・体験的な学習に意欲をもって取り組むことができる。

【課題】

- ・地域（学校周辺）について知らないことが多い。
- ・言葉のみの知識はあるが、体験的な経験が少ない。
- ・初めてのことに対する不安がある。
- ・興味関心の幅が狭い。
- ・自分で考えたり、他者を意識して発信したりすることが苦手。

実践Ⅰ

②指導計画

時間	学習計画
第一次 (4時間)	<p>学校の周りの課題（よくない）をみつけよう</p> <ul style="list-style-type: none">・学校周辺の散策・課題（よくない）を共有・課題解決のための方法を考える
第二次 (4時間)	<p>やってみよう</p> <ul style="list-style-type: none">・清掃活動・成果確認（ゴミの種類分け、量の確認）
第三次 (2時間)	<p>活動報告</p> <ul style="list-style-type: none">・ゴミはどこからくるのか考える・自分たちにできることを考える

実践 I

③取組の概要

地域に出かけ、課題（良くない）発見
情報共有、改善策を考える



ゴミ拾い



成果確認（重さ、種類分け）



取り組みのまとめ
自分にできることを
考える



実践Ⅰ

④生徒の様子と改善点

生徒の様子	改善点（今後に向けて）
<ul style="list-style-type: none">実際に自分たちで出かけて、地域の課題（良くない）を見つけることができた。生徒自身の発見からの展開 →みんなで体験することができた。見つけた課題から、自分たちにできる考えることを考えることができた。「まだまだゴミはあった」「もっとやりたい」など、生徒たちから今後への意欲につながる言葉が出た。	<ul style="list-style-type: none">課題の共有（見つけたものを伝えること）が難しかった。 →スキル、多様性の受け入れ、意見をもちにくい生徒への働きかけ方法生徒に合う学び方のスタイルを見つける。（見る・聞く・やる）ゴミで終わるのか、資源に繋げるのか。地域の人との関わりがなかった。 →別単元で地域の方との交流会、学校に招いたおもてなし会

実践Ⅱ

①つけたい力・ねらいについて

『 地域を知ろう② 』

浜田市のゴミ処理
の仕組みを知る

ゴミについて知り、
今後の生活でできる
ことを考える

相手を意識して
自分の
考えを伝える

目指す姿：学校周辺の地域の様子と特色を知り、やってみたいことを
見つけ、協力して取り組む。

実践Ⅱ

②指導計画

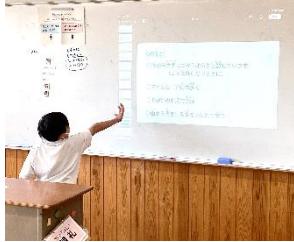
時間	学習計画
第一次 (4時間)	ゴミのゆくえを知ろう ・調べ学習（インターネット、アンケート） ・浜田市のごみの分別方法（カード分け）
第二次 (8時間)	やってみよう ・コンビニで買った弁当の分別 ・校外学習（浜田市役所リサイクルステーション、石央リサイクルセンター）
第三次 (2時間)	まとめよう ・自分たちにできることを考える

※江津の校外学習は実施できず

実践Ⅱ

③取組の概要・改善点を基にした指導支援の工夫

知ろう（調べ学習）



やりとりの場面



やってみよう (自分が食べたごみの分別)



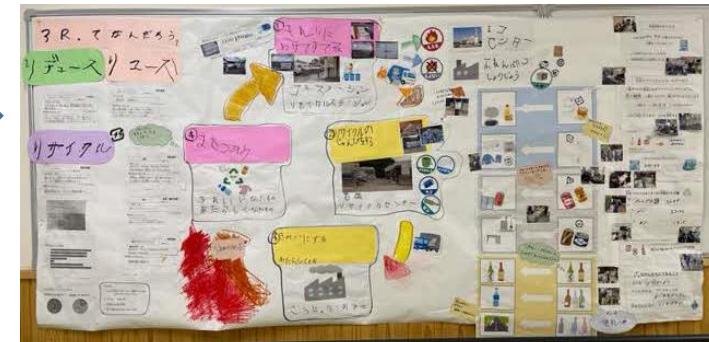
伝え方・聞き方 のポイント

いろいろな学び方

浜田市役所リサイクルステーション 石央リサイクルセンター見学



まとめよう



実践Ⅱ

④生徒の様子

生徒の様子

- ・自分のすることを理解し、意欲的に調べたり、校外学習で係の仕事をしたりしていた。
- ・自分でマークを確認したり教員と相談したりすることで、ごみの分別ができた。大変さを実感していた。他の学習でマークを見つける様子。
- ・実際の見学を通して、ゴミの量の多さやリサイクル方法への理解を深めていた。
- ・ゴミの分別を予想したり役割分担を決めたりする場面では、自分の考えややりたいことを伝えたり、意見が重なったら生徒同士で相談して譲り合ったりしていた。
- ・目的を理解し、ルールやマナーを意識して活動していた。

実践Ⅱ

⑤成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">・役割やペア学習の設定 →自分の意見をもつ、伝える、相談する、決めたことに取り組む。・いろいろな学び方 →実感、知る・理解を深める、感じたことわかったことから自分の考えをもつ。・発表の仕方のポイント →他者を意識して伝える、聞く。(リアクション)・目的理解 →よりよい行動を考えて実践する。	<ul style="list-style-type: none">・情報収集、整理が難しかった。 →身近で具体的なテーマの設定。精選した情報提示。各教科の学習状況を踏まえた活動。・地域のニーズについて触れる機会がなかった。 →2月唐高会おもてなし会で、地域のことを一緒に話す活動設定。(発表する、地域の方の話を聞く)・個々で考えてまとめる展開だった。 →個の考えをもとにした話し合い。よりよい考えをもったり、みんなで何かを作り上げたりして最終的に一つのものができあがる展開。

中学部2年グループ



『地域の人と一緒に食品リサイクルを考えよう』

生徒の実態 2年生7名

☆強み

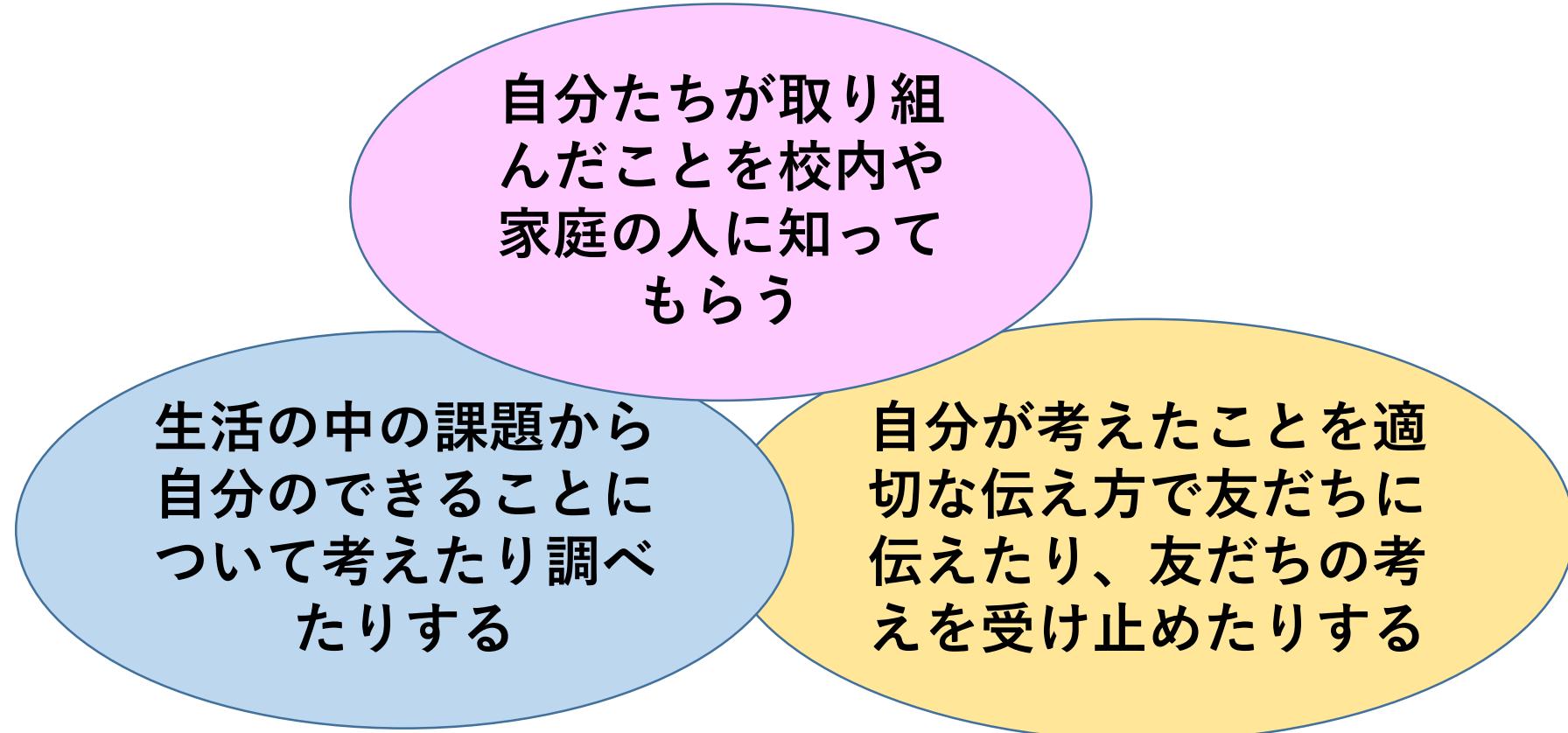
- ・人と積極的にかかわろうとする。
- ・体験的な活動に積極的にかかわることができる。
- ・地域のことやものなどの学習に意欲をもって積極的に取り組むことができる。
- ・調べたことや体験したことを、自分たちの得意な方法を生かして表現することができる。

☆課題

- ・それぞれの思いを集団で意見を合わせたり、調整したりすることは苦手。
- ・学校周辺の地域に出かけた経験は少ない。
- ・話を聞いたり、疑似的に体験するだけではイメージすることが難しかったり、意欲を持つことが難しい。

実践① つけたい力・ねらいについて

『地域の人と一緒に食品リサイクルを考えよう①』



目指す姿：地域の自然の特色や環境について知り、できることを考え、協力して取り組む。

実践Ⅰ

②指導計画

時間	学習計画
第一次 (4時間)	食品リサイクルについて知ろう ・食品リサイクルについて知る ・身近な食べ物からリサイクルできることを調べる
第二次 (6時間)	石見食品での食品リサイクルを知ろう ・見学 ・おからの活用方法を知る ・まとめ
第三次 (4時間)	豆腐作りをしよう ・おからができる過程や量を知る

実践Ⅰ

③取組の概要

石見食品での食品リサイクルを知ろう



豆腐作りの見学や豆腐作りの体験

食べられるおからが、家畜のえさや
畑の肥料になったり、食用として乾燥
おからになっていることを聞く



自分たちで豆腐作りをし、おからができる過程や量を知ろう



大豆から豆腐作りに挑戦

豆腐2丁分からできるおからの量

実践Ⅰ

⑤生徒の様子と改善点

生徒の様子	改善点
<ul style="list-style-type: none">○見学や体験など直接的な活動であり、積極的に質問するなど意欲的な姿が見られた。○おからについて、捨てられてしまうもの、餌や肥料として使われるものであることなど、新たな発見があり、驚く生徒もいた。○豆腐作りの過程でおからがたくさんできることを知り、使い道はないか考える姿が見られた。	<ul style="list-style-type: none">●おからのリサイクルの必要感はあっても、リサイクル方法を自分たちだけで見つけることは難しかった。●知識を得たり体験したりすることで終わってしまい、生徒自身が考えたり、話し合ったりする場面が少なかった。●学んだことを校内や校外の人に伝える場面がなかった。

実践Ⅱ ①つけたい力・ねらいについて

『地域の人と一緒に食品リサイクルを考えよう②』

自分たちが取り組んだことを校内や地域の人に知ってもらう

校内や地域の中で自分たちにできることを考え、自己有用感を感じながら取り組む

自分が考えたことを適切な伝え方で友だちに伝えたり、友だちの考えを聞いて自分の考えを調整したりする

目指す姿：地域の自然の特色や環境について知り、できることを考え、協力して取り組む。

実践 II

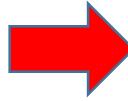
②指導計画

時間	学習計画
第一次 (6時間)	自分たちにできるおからリサイクルを考えよう ・地域の人に教えてもらう ・教えてもらったことの中で話し合って決める
第二次 (6時間)	やってみよう ・鶏のえさ作りグループ／調理グループ ・作ったえさを届ける／試食してもらう
第三次 (10時間)	地域の人と一緒に取り組もう ・豆腐作り、おから調理を一緒にする ・おからについて学んだことを発表する ・まとめ

実践Ⅱ

③取組の概要・改善点を基にした指導支援の工夫

自分たちにできるおからリサイクルを考えよう



地域の人に教えてもらい、リサイクル方法の**選択肢を設定**（鶏のえさ、おから調理、肥料）

選択肢を基に**話し合い活動**

やってみよう



話し合いで決まったことを実態に応じてグループに分けて実践

地域の人と一緒に取り組もう

自分たちが学んだことを**地域の人に伝える**



実践Ⅱ

④生徒の様子

指導・支援の工夫	生徒の様子
選択肢の設定	おからリサイクルに取り組んでいる地域の方の話を聞いたり、体験したりし、その実践例を選択肢として設定した。選択肢があることでおからリサイクルをより身近に感じやすく、自分たちにできることを考えやすくなった。
話し合い活動	話し合いのフォーマットを使ってキーノートに自分の考えと理由を打ち込んだ。決まった書式があることで考えやすく、書くより容易な生徒もいた。話し合いでは相手の理由を聞きながら自分の考えを変えたり、譲ったりする姿も見られた。
地域に伝える	自分たちが作った鶏のえさを届け、実際に鶏を見せてもらい、嬉しそうな様子だった。まちづくりセンターでは、自分たちが豆腐作りやおからについて学んだことを地域の人に教える立場になり、自信をもって伝える姿が見られた。地域の人に質問されて答えたり、楽しく会話したりする様子も見られた。

実践Ⅱ

⑤成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">SDGsや食品リサイクルについて、地域の企業や地域の人に行っていることを知ることで、より身近に、自分の生活をイメージしながら考えることができた。実際に作ったり、地域の人と出会ったり、食べたりする直接的な体験を積むこと、理解を深めることができた。地域の人と一緒に作ったり、教えてもらったりすることで、地域に暮らす人のことを知ったり地域の人とのかかわりを深めたりすることができた。	<ul style="list-style-type: none">SDGsや食品リサイクルの視点を生活の中に持つきっかけになったように思うが、今回取り上げた内容が実際の生活の中にすぐには取り入れにくいので、日常的な生活の中に実際に取り入れられる内容までの学習が行えるとよかったです。地域の中で暮らす一員として、自分たちが貢献している実感を得られる体験は少なかった。

中学部3年グループ

『地域の特産品をPRしよう』

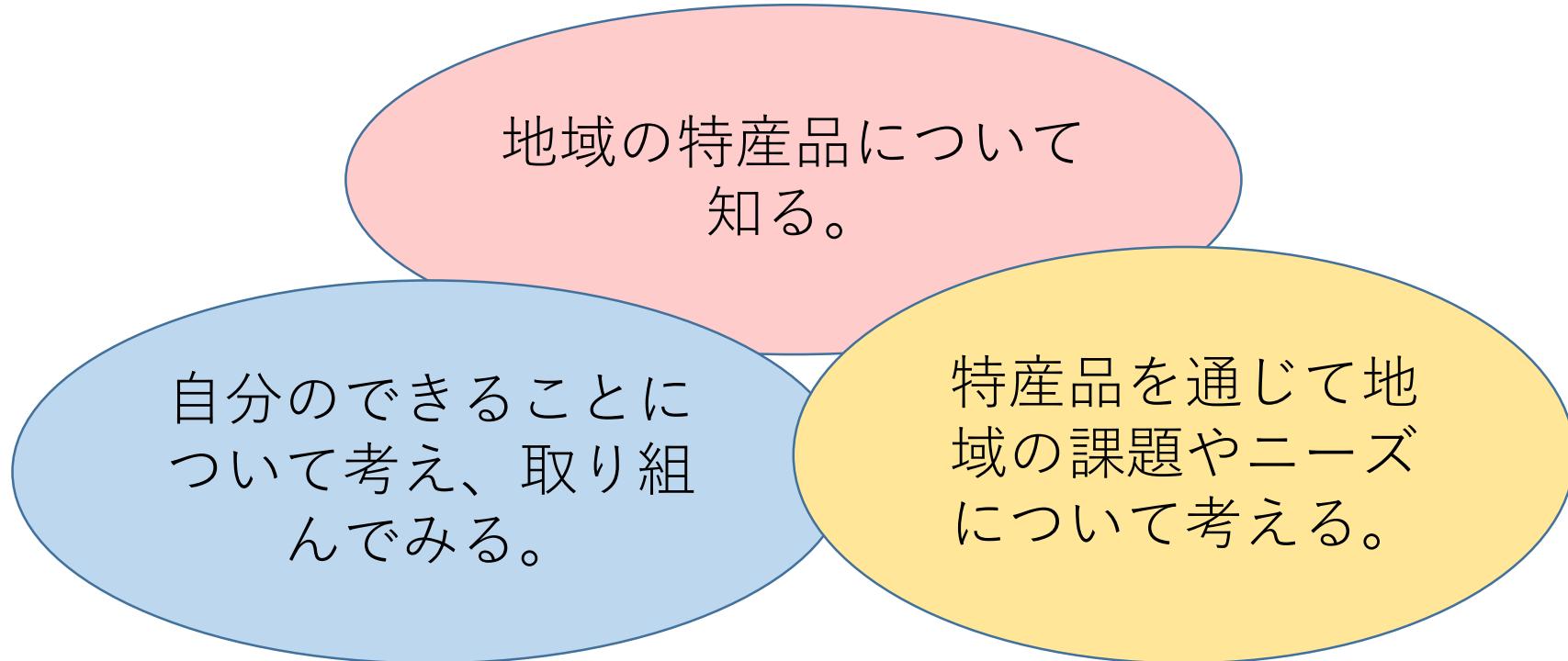


生徒の実態

強み	課題
<ul style="list-style-type: none">・調理や食に興味関心が高い。・地域のひと・もの・ことに興味関心がある。・自分たちの行動が環境に及ぼす影響について身近に感じている。・自分にできることを考え、具体的にやってみようとする姿勢や意欲が育ちつつある。	<ul style="list-style-type: none">・見通しがもちづらい不安感から学習活動へ向かいにくい。・消極的な発言が多い。・自分の考えを上手に表出できない。・友だちの考えを受け入れることができつつあるが、話し方が不適切であったり伝え方がわからなかったりする。

実践Ⅰ ①つけたい力・ねらいについて

『地域の特産品をPRしよう①』



目指す姿：地域の課題やニーズを知り、できることを考え、協力して取り組む。

実践 | ②指導計画

時間	学習計画
第一次（6時間）	浜田や江津の特産品について知ろう
第二次（6時間）	気になる特産品を使って調理をしよう
第三次（12時間）	浜田市びいびくん食堂 ～クックパッド掲載を目指して～
第四次（4時間）	地域のために自分ができることを考えよう

実践 | ③取組の概要

浜田や江津の特産品試食、教員への
アンケートによる特産品特徴調査



浜田市びいびくん食堂掲載に向けた
特産品を使ったたこ焼き試作



市役所の方を招いた
取り組み発表



実践 | ④生徒の様子と改善点

生徒の様子	改善点
○特産品の良さを感じながら活動に取り組んでいた。	●個々の取り組みが多く、協働して活動する場面が少なかった。
○タップパッド掲載を目指して、調理する具材を生徒たちで考える様子が見られた。	●PRしたことのフィードバックがなく生徒たちの達成感が少なかった。
○特産品に興味をもち、これからも学習したいと発言する生徒もいた。	●地域の人とのかかわりが最後の単元のみになってしまい、かかわりが少なかった。
○地域の人からの問い合わせになぜたこ焼きを作ったか理由をつけて答えていた。	

実践Ⅱ ①つけたい力・ねらいについて

『地域の特産品をPRしよう②』

目標や課題を共有し友だちや地域の人と力を合わせて活動する。

地域の一員であることを自覚し、地域を大切に思う気持ちをもつ。

整理したことを友だちに伝える。友だちの考えを受け止める。

目指す姿：地域の課題やニーズを知り、できることを考え、協力して取り組む。

実践Ⅱ ②指導計画

時間	学習計画
第一次（3時間）	地域の特産品の課題把握 P Rする特産品と方法の決定
第二次（5時間）	P Rするための素材集め、制作、発表準備
第三次（4時間）	発表①
第四次（3時間）	発表②③
第五次（2時間）	まとめ、評価

実践Ⅱ

③取組の概要・改善点を基にした指導支援の工夫

同じ目標に向かって役割を分担
し取り組むロゴグループの活動

市役所の方からの励ましの言葉により「活動」への意欲がUP！！



市役所の方からの
課題提供

ICT機器の活用



既習の学習を活かした
2学期の取り組み



自分たちのできることを考えた
取り組み

実践Ⅱ ④生徒の様子

生徒の様子

- ・自分から「浜田を自慢する方法」について理由を添えて考えていた。
- ・特産品にあったロゴを制作することや、ロゴと関連するキャッチフレーズを考えながら制作に取り組んでいた。制作では友だちに意見を求めたり、困ったときに相談したりする様子があった。
- ・興味をもった特産品を工夫して伝えようと動画編集していた。
- ・準備する中で中身を工夫したり、再考、改良したりする様子があった。見てもらう人を意識できていた。
- ・自分の地域と関連づけて考えたり、もっとたくさんの人々に知ってもらうためにできることを考えたりして活動していた。
- ・1人1人が自分の強みを活かしてPRの準備に取り組んでいた。

実践Ⅱ ⑤成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">○1人1人に役割を設けたことで自分の意見を伝える場面が増えた。○意見を言い合う、相談する姿が増えた。○言葉が出にくい生徒がipadを活用してかかわりがもてた。○一人一人が自分の強みを活かして同じ目標や課題を共有する喜びを感じ始めていた。	<ul style="list-style-type: none">●生徒が地域の特産品の課題を意識した自分にできる取り組みを考えることが難しかった。●特産品をPRする目的が自分たちの好きなもの中心になった。●人選等を生徒の実態を考えてかかわりやすい人にできると良かった。

中学部

取組の工夫

成果と課題

話し合い活動の工夫



①目的、目標を共有する

- ・視点を整理したワークシートを活用
- ・毎時間、単元及びその時間の目標を確認
- ・同様に目標に対する自己評価

生徒ふりかえりシート 月 日

今日のグッジョブ

あきりでやながった すこしだけ できた じぶんからできた

あきりでやながった すこしだけ できた じぶんからできた

*やったこと・がんばったこと

*きづいたこと・わかったこと

*つぎがんばりたいこと

話し合い活動の工夫



②考える～生徒の気づきを促す

- ・地域の人・もの・ことを活用した体験学習を設定する。
- ・課題に対して「自分のできること」を考える。実態に応じた役割をもつ
- ・気づきから具体的な活動を考える。
調べ学習、調査、ＩＣＴ機器検索

話し合い活動の工夫

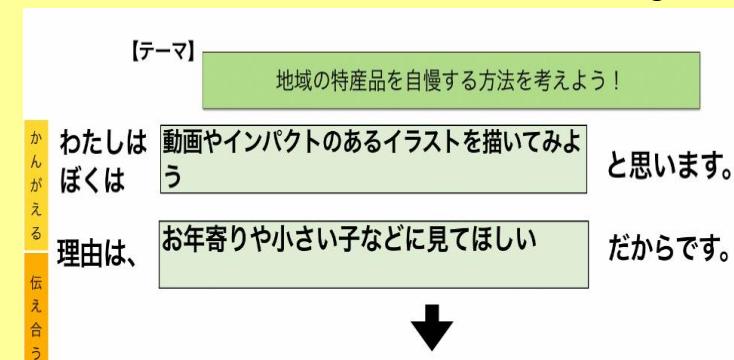


③伝え合う

- 理由をつけて自分の考えを発表する。
～話型や選択肢の活用～



- ICT機器を活用して自分の考えを視覚的に示す。
～Keynoteの活用～



④まとめる・発表する

- 学校だけでなく地域での発表の場を設定する。

地域との学習の充実のために



地域とつながる

- ・ 地域の人（まちづくりセンター、市役所の方等）とのつながり
- ・ 地域の人との話し合いの場
- ・ 地域の人からのアドバイスや感想

学習の目的の共有

地域との学習の充実のために



地域とともに考える・行動する

- ・地域に向けて取り組みの発信
- ・地域の声を実感する
自己有用感の高まり
- ・地域のために自分ができることに取り組む

成果

話し合い活動

- ・目的を意識して活動に取り組む姿が多く見られた。
- ・ICT機器等、実態に応じた表現ツールを使う力を身につけた。
- ・自分の意見を発表しよう、友だちの意見を聞こうとする姿勢が伸びた。
- ・自分の得意なことを活かして友だちと活動する良さを感じることができた。

地域資源の活用

- ・地域の人と一緒に活動することで地域のことを知ったり、かかわりを深めたりすることができた。
- ・体験的な活動を通して課題に気づき、考えをもつことができた。
- ・地域の一員として自分の生活をイメージしながら地域のためにできることを考えることができた。

課題

話し合い活動

- ・自分の意見を表現しにくい生徒への手立てや働きかけ。
- ・実態に応じた目標設定。
- ・個の考えをもとに、よりよい考えをもったり、みんなで作り上げたりする展開にしていく。

より主体的に
より対話的に

地域資源の活用

- ・地域の課題やニーズをどのように理解していくか。
- ・生徒の実態に応じた地域資源の活用を検討する。
- ・身近で具体的なテーマ設定とし、日常的な生活につながるように学習する。
- ・地域のためになっているという実感をどうフィードバックするか。

かかわりを広げる、
深める

今後に向けて

話し合いの ステップアップ



- ・話し合いの流れを視覚的に示す。
- ・話し合いを深めていくグループингの工夫。（ペア、少人数）
- ・みんなで考えをまとめて、1つのものを作り上げる。

今後も協働力のあり方について考える

社会で生き、社会に貢献する子ども

地域の一員としての意識を高める

生活に密着した 地域連携



- ・体験学習を通して、地域のニーズに触れる。
- ・生活に返す視点をもち、必然性のある題材を取り上げる。
- ・実態に応じた役割や貢献の姿を見つける。

